

飼料用米「ミズホチカラ」管理情報 NO.2

J A 粕 屋
北筑前普及指導センター

1 生育概況

7月の平均気温は平年より1.5℃高く、降水量は平年比179%と非常に多く、日照時間は平年比99%となり、高温・多雨で推移しました。7月21日の生育調査の結果、「ミズホチカラ」の6月下旬植えで、**分けつは平年並み～やや少ない傾向です。**1ヶ月予報では、8月も高温が続く予報のため、出穂が早くなることが予想されます。今後の穂肥や病害虫防除の時期については、適期を逃さずに作業できるよう計画を立てましょう。

田植日	穂肥の目安時期		出穂期の目安 (平年)
	1回目 (出穂の20～18日前)	2回目 (1回目の7～10日後)	
6月11日頃	8月11～13日頃	8月18日～23日頃	8月30日頃
6月18日頃	8月15～17日頃	8月22日～27日頃	9月3日頃
6月25日頃	8月17～19日頃	8月24日～29日頃	9月5日頃

今後も高温傾向のため、出穂は更に早まる可能性が高い！

2 穂肥

① 基肥に「緩効性一発肥料」(えさ米専用一発2566)を施用した場合

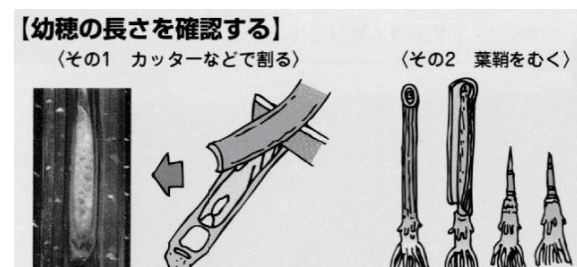
→**穂肥施用は必要ありません。**ただし、葉色(4.0以下)および生育が極端に悪い場合は各プラザにご相談ください。

② 基肥に「化成肥料」(くみあい化成ベスト444)を施用した場合

→1回目は、出穂の20～18日前(幼穂長2～5mm)に、**硫酸を20kg/10a施用。**

2回目は、1回目の7～10日後に、**硫酸を10kg/10a施用。**

※ミズホチカラは生育期間が長いので、穂肥は必ず2回実施しましょう。



3 病害虫

イネカメムシに要注意！！・・・体色は茶褐色、周囲より出穂の早いほ場に集まる傾向あり！

今年は、**イネカメムシの発生が増加**しています！イネカメムシは出穂期頃に水田に侵入し籾を吸汁し、**不稔による減収や斑点米を引き起こします。**イネカメムシ多発ほ場では、**防除は出穂期(その他のカメムシは穂揃期)**に行いましょう。農薬はキラップの感受性が低いため、エクシードを選択しましょう。また、畦畔の草刈りは出穂の2週間前までに完了しましょう。



トビイロウンカ・・・飛来が遅く、飛来量も少ないが油断は禁物！

福岡県内では、7月上旬からトビイロウンカの飛来が確認され、**本飛来波の防除適期は8月20日～9月3日頃**と考えられます。生育期間が長いミズホチカラではウンカの被害が発生しやすいので、今後の発生に注意しましょう。

	対象病害虫等	農薬名	処理量(10aあたり)	使用時期
基幹防除	ウンカ、カメムシ類	エクシード粉剤 DL	3kg	収穫7日前まで
		エクシードフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで
補正防除	ウンカ、カメムシ類	エクシード粉剤 DL	3kg	収穫7日前まで
		エクシードフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで
	稲こうじ病、ごま葉枯病	ノンプラス粉剤 DL	4kg	収穫7日前まで
		ノンプラスフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで

イネカメムシ多発ほ場では、2回防除を徹底しましょう。

4 今後の水管理

令和5年産の水田活用交付金から、飼料用米の収量は**1.7mmのふるい上米のみを助成対象とすることに変更**されました。**このため、粒の充実を図り屑米を減らすことが重要です。**ミズホチカラは登熟がゆっくり進み生育後半に収量が増える性質があるため、**落水時期はできるだけ遅く**しましょう。水利の関係上、早く用水が切れる場合は、その直前に満水にして水尻を止めできるだけ落水を遅らせるようにしましょう。また、台風接近時は深水管理により、稲の水分蒸散を抑えるようにしましょう。